

令和 4 年 5 月 1 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K12950

研究課題名（和文）インド密教における五護陀羅尼の構成と展開

研究課題名（英文）The Formation and Development of the Pancaraksa in Indian Esoteric Buddhism

研究代表者

園田 沙弥佳（SONODA, Sayaka）

東洋大学・東洋学研究所・客員研究員

研究者番号：20834857

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：「五護陀羅尼」Pancaraksaとは5つの初期密教経典の集成を示すほか、インド後期密教において経典が神格化された5尊の女神を表す。本研究ではチベット語訳系統の五護陀羅尼経典および注釈書の翻訳研究を通じてその特色および他信仰との関連性を検討した。同時に、インド後期密教文献に属する『成就法の花環』等に説かれる観想上の姿や実際の作例と、陽炎が神格化されたマーリーチー等に見られる女尊の特徴を比較した。その結果、五護陀羅尼はその成立と神格化の過程において、ヒンドゥー教や『根本説一切有部律』等の影響を強く受けていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の五護陀羅尼研究ではサンスクリット・テキスト系統の経典がそれぞれ単独で取り扱われることが多く、チベット語訳系統や五護陀羅尼の神格化を含めた包括的な研究は少なかった。さらに、サンスクリット・テキスト系統の五護陀羅尼と比べて、チベット語訳系統の五護陀羅尼の具体的な内容は明確ではなかった。本研究によって、チベット語訳系統の五護陀羅尼の具体的な内容構成や、経典の再構成、また、五護陀羅尼に属する女尊とその他の女尊信仰との比較考察を試みたことにより、五護陀羅尼信仰を通じて初期密教から後期密教への宗教的機能を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The Pancaraksa represents a collection of five early Buddhist tantric sutras, as well as the five deified goddesses of late esoteric Indian Buddhism. In this study, I examined its characteristics and relevance to other beliefs using translation studies of the Pancaraksa scriptures and translated annotations of Tibetan lineage. Simultaneously, I compared the deification of Pancaraksa in Sadhanamala, belonging to the late Indian esoteric literature, and actual works to the characteristics of the goddesses found in Marici and Tara. As a result, it became clear that the Pancaraksa was strongly influenced by Hinduism and "Mulasarvastivadina-vinaya" in its formation and deification.

研究分野：インド密教

キーワード：インド後期密教 初期密教経典 パンチャラクシャー 女神 マーリーチー ヴァーマナ・ブラーナ
根本説一切有部律 ヴァイチャーリー疫病消除説話

1. 研究開始当初の背景

五護陀羅尼は特定の 5 種の初期密教經典によって構成され、インド後期密教時代にはそれぞれ 5 尊の女神として神格化された。従来の研究ではそれぞれ単独で扱われることが多く、また、5 種の陀羅尼經典の構成はその内容から大別して、サンスクリット・テキストとチベット語訳の 2 系統の存在が確認されていることが Skilling, Peter 氏の研究(1992 年)において指摘されている。一方、「五護陀羅尼」やその関連經典の語が使用される際、注記がない限り専らサンスクリット系統が示されており、両系統が区別されることは少ない状況であった。本研究代表者は先行研究を手掛かりに、両系統の内容構成および特色について比較考察したところ、『大寒林陀羅尼』と『大護明陀羅尼』の内容は 2 系統間で大きく相違があり、それぞれ別個に展開した可能性のあることを指摘した。

以上の五護陀羅尼に関する研究状況の中において、本研究は陀羅尼經典が神格化された際に与えられた影響について検討し、經典から神格化に至るまで、通時的な五護陀羅尼信仰の展開を解明する必要があった。同時に、これまで具体的に明らかにされてこなかったチベット系統の五護陀羅尼經典を中心に取り上げ、両系統の五護陀羅尼經典と注釈書に見られる特色を把握するとともに、チベット語訳『大寒林陀羅尼』『大護明陀羅尼』の注釈書をもとに注釈対象經典の再構成を試みた。

2. 研究の目的

本研究課題は、初期密教經典の中でも最初期に成立したとされる陀羅尼を含む五護陀羅尼の構成を解明するとともに、インド後期密教における五護陀羅尼明妃の信仰形態の特色を明らかにし、初期密教から後期密教への展開を解明する一助となることを目的とする。考察に際して、五護陀羅尼各經典のサンスクリット・テキストや各語訳、および注釈書をはじめ、アバヤーカラグプタによって編纂された『成就法の花環』や『完成せるヨーガの輪』等のインド後期密教における成就法文献を参照し、文献研究を進める。併せて、サンスクリット・テキストの他、チベット語訳、漢訳など、校訂本で使用されていないテキストに加え、マンガラや尊像等、実際の作例も適宜考察対象に含める。文献研究と図像研究を並行して行い、さらに現地調査をとおして包括的に比較検討することで、陀羅尼の持つ宗教的機能と女尊信仰の特色を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)陀羅尼の神格化の研究に関して、主に 11-12 世紀頃インドの学匠アバヤーカラグプタによって編纂された『成就法の花環』を使用する。バツタチャリヤのテキスト校訂本(1968 年)を底本とし、チベット語訳、漢訳の他、校訂本に使用されていないサンスクリット・テキスト(東京大学・京都大学写本)を参考に翻訳研究(和訳等)を行う。

その他、同じくアバヤーカラグプタによって編纂された成就法集『完成せるヨーガの環』の記述も参考にする。五護陀羅尼関連の成就法その他、陀羅尼と関連性の深い女尊マーリーチーの成就法も考察対象に含める。具体的には、インド後期密教經典に属する『成就法の花環』(Nos. 89, 91, 104, 116, 132~147, 197, 201, 206)と『完成せるヨーガの環』(Nos.17, 18)等を用いて、五護陀羅尼に属するマハーマーユリー(孔雀明妃)と女尊マーリーチー(摩利支天)の成就法を中心に、女神信仰の特色について比較考察する。

(2)五護陀羅尼関連經典のうち、『大寒林陀羅尼』とその注釈書を中心に取り上げる。主な使用テキストは、第一に、サンスクリット・テキスト系統の『大寒林陀羅尼』と、対応する漢訳(宋法天訳『大寒林聖難拏陀羅尼經』、『大正新修大藏經』vol.21, No. 1392, 984 年訳出)チベット語訳(チベット語訳経題『聖持大杖陀羅尼』、デルゲ版西藏大藏經 No. 606、北京版西藏大藏經 No. 308)第二に、チベット語訳系統の『大寒林陀羅尼』(チベット語訳経題『聖持大杖陀羅尼』、デルゲ版西藏大藏經 No. 562、北京版西藏大藏經 No. 180)そして第三に、チベット語訳注釈書である『明呪大妃大寒林經十萬註』(デルゲ版西藏大藏經 No. 2693、北京版西藏大藏經 No. 3517)を取り上げる。以上のテキストに見られる記述を相互に比較検討し、五護陀羅尼関連文獻における位置づけを把握する。

また、上記テキストとあわせて岩本裕氏(1927 年) Hidas, Gergely 氏(2017 年)の校訂本を用いて、『明呪大妃大寒林經十萬註』が注釈対象としている經典引用部分(前半部分)を基に、現存しないサンスクリット系統『大寒林陀羅尼』のチベット語訳を再構成する。

(3)五護陀羅尼関連經典のうち、『大護明陀羅尼』とその注釈書を中心に取り上げる。主な使用テキストとして、第一に、サンスクリット・テキスト系統の『大護明陀羅尼』と、対応する漢訳(宋法天訳『大護明陀羅尼經』、『大正新修大藏經』vol.20, No. 1048, 984 年訳出)第二に、チベット語訳系統の『大護明陀羅尼』(デルゲ版西藏大藏經 No. 563、北京版西藏大藏經 No. 181)第三に、チベット語訳注釈書『大秘密真言隨持經十萬註』(デルゲ版西藏大藏經 No. 2692、北京版西藏大藏經 No. 3517)を使用する。なお、サンスクリット系統の『大護明陀羅尼』はヴァイシャーリー疫病消除説話が説かれており、同じくヴァイシャーリー疫病消除説話が含まれる『根本説一切有部律』、『薬事』、および、『ヴァイシャーリーブラヴェーシャ』等の經典も考察対象に

含め、先行研究での指摘をふまえてその特色を明らかにする。また、チベット語訳経題に見られる経題のバリエーションについて、北京版、デルゲ版、ナルタン版、ラサ版、シェルカル写本シェイ版等のチベット語各版をもとに整理する。

(4)上記研究を遂行する上で、写真・文献・マイクロフィルムを含む必要な資料を収集するため、国内出張として東京大学、京都大学、高野山、東京国立博物館等に赴く。

4. 研究成果

(1)マーリーチー(摩利支天)は五護陀羅尼明妃と同時期にインドで普及した女尊であり、『マーリーチー陀羅尼』として知られるように陀羅尼とも結びつきの強い尊格である。本研究ではインド後期密教經典に属する『成就法の花環』を用いて、五護陀羅尼に属するマハーマーユリーと女尊マーリーチーの成就法を中心に、陀羅尼と関連の深い女神信仰の特色について比較考察を行った。また、考察対象にはターラー女尊の脇侍としてのマハーマーユリーとマーリーチーの成就法も加えた。

その結果、『成就法の花環』に見られるマハーマーユリーとマーリーチーは初期の図像的特色を持つターラーの成就法にも登場していることから、仏教女尊の中でも早い段階で成立したと考えられること、また、両者は天体・天候と関係することから天災による諸問題を解決する機能が期待されていた可能性等について見解を明らかにした。同時に、『成就法の花環』No.134の和訳を行った。バツチャリヤ校訂本を底本とし、サンスクリット写本(東京大学所蔵写本No.451、京都大学所蔵写本No.119)、チベット語訳にデルゲ版No.3524等を用いた。以上の研究成果の一部は『印度學佛教學研究』第68巻第1号、『東洋学研究』57号等において公表した。

(2)五護陀羅尼関連注釈書のうち、『大寒林陀羅尼』の注釈書である『明呪大妃大寒林經十萬註』の翻訳研究を進め、注釈書の特色とチベット大蔵經における五護陀羅尼の構成について明らかにした。2系統の『大寒林陀羅尼』はチベット大蔵經において別個に収録されているが、内容や経題が異なる經典が一つの注釈書に含まれた背景について、以下の2点が推察される。1点目に、当時『大護明陀羅尼』と見なされていた両テキストを注釈者が意図的に合体させて注釈されたことである。あるいは2点目に想定されることとして、両系統の内容が元々一つとなっているテキストを注釈者が使用したことが考えられる。なお、後者の場合は従来確認されている2系統以外の第3の『大護明陀羅尼』の文献が存在することになる。

さらに、本注釈書が注釈対象とする經典の引用部分を抜粋し、現在確認されていないサンスクリット系統の『大寒林陀羅尼』部分の經典の再構成を試みた。テキストは北京版西藏大蔵經・デルゲ版西藏大蔵經を使用した。そのほか、『大寒林陀羅尼』が成立する際のヒンドゥー教聖典(『ヴァーマナ・プラーナ』)、『ラーマヤナ』による影響について述べた。また、『大護明陀羅尼』の陀羅尼呪部分に登場する鬼神や神々について、サンスクリット・テキスト、漢訳、チベット語訳、および注釈書で比較し、サンスクリット・テキストとチベット語訳注釈書、漢訳とチベット語訳間においてそれぞれ共通点が見られることを指摘した。本成果を、五護陀羅尼の系統が成立した背景について今後精査する際の手掛かりとしたい。以上の研究成果の一部は『印度學佛教學研究』第69巻第3号、『東洋学研究』58号等において公表した。

(3)五護陀羅尼関連注釈書のうち、『大護明陀羅尼』の注釈書である『大秘密真言隨持經十萬註』を中心に取り上げ、サンスクリット・テキスト、漢訳、チベット語訳間における五護陀羅尼の構成を再検討した。本注釈書は全体が9つの章に分かれており、その章題の一部に「ヴァイシャーリー・プラヴェーシャ」の名が含まれる。本注釈書成立の際に、ヴァイシャーリー疫病説話の影響を受けたことが見受けられる。また、本注釈には『大護明陀羅尼』に説かれていないマンダラや儀礼、經典の尊格といったインド後期密教的要素について言及されている。その図像的特色は11~12世紀頃に編纂されたインド後期密教文献の記述と異なることから、カルマヴァジュラが別系統のマハーマントラーヌサーリニー明妃(『大護明陀羅尼』が神格化した姿)を把握していたことが考えられ、11世紀初頭における陀羅尼經典神格化の様相の一端を窺うことが出来る。

また、本注釈書が注釈対象とする經典の引用部分(ヴァイシャーリー疫病消除説話)を抜粋し、テキストに北京版西藏大蔵經・デルゲ版西藏大蔵經を用いた上で、現在存在が確認されていないサンスクリット系統『大護明陀羅尼』と対応するテキストを再構成した。そのほか、『大護明陀羅尼』には鬼神の部族を知ることにより除災や守護が期待される機能が説かれている。この機能は『大護明陀羅尼』を含む五護陀羅尼のほか、密教經典以外にも見られる。例えば4世紀初頭に成立した中国の道教經典『女青鬼律』にも記されていることが指摘されており、初期密教經典成立期に含まれる3~4世紀前後には上記の機能が普及していたことが推察される。以上の研究成果の一部は『印度學佛教學研究』第70巻第3号、『東洋学研究』59号等において公表した。

(4)本研究期間の研究成果(論文、発表資料等)は個人ホームページを設置して公開し、オープンアクセス化に対応した。また、インド密教における女尊の図像的特色や成就法文献等を収録したWebデータベース(HTML, CSS, SQL, PHP等)の開発を進め、2021年にはプログラムの版を同ホームページで公開した。

以上、本研究期間を通して、インド後期密教において神格化された五護陀羅尼明妃と他の女尊との信仰形態の比較や、五護陀羅尼經典および注釈書研究等、經典から神格化に関して包括的に取り扱った。本研究期間では、新型コロナウイルス蔓延の影響で当初の研究計画の変更を余儀なくされる場面もあったが、研究図書のリモート複製サービスや各種オンラインデータベース等、各研究機関のサービスを利用して頂けたことで、新たな研究方法の発想や開拓につながった。(4)

の Web データベース開発もその一つである。同時に、本研究を進めていく上で、新たな課題点も明らかとなった。例えば、上記(2)(3)で取り上げたとおり、2 系統の『大寒林陀羅尼』『大護明陀羅尼』はそれぞれチベット大蔵経において別個に収録されているものの、内容、経題が異なる別個の経典が一つの注釈書に含まれている。注釈者が注釈する際に双方の内容を含んだ単一のテキストを使用していた場合、2 系統以外の第 3 の文献が存在していた可能性があるため、新資料の存在に関して今後写本研究を進める上で精査したい。(3)で取り上げた注釈書に関しては、経典で言及されていない神格化に関する図像的特色が説かれている。この図像的特色は(1)で取り上げたインド後期密教文献に属する『成就法の花環』や『完成せるヨーガの環』等に見られる特徴と相違が見られることから、今後の図像研究を進める上で検討する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 園田沙弥佳	4. 巻 59
2. 論文標題 『大護明陀羅尼』注釈書とヴァイシャーリー疫病消除説話	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 143-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 園田沙弥佳	4. 巻 70
2. 論文標題 The Commentaries on pancaraksa in the Tibetan Tripitaka	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 印度學仏教學研究	6. 最初と最後の頁 155-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 園田沙弥佳	4. 巻 58
2. 論文標題 Mahasitavatiの注釈書について Mahadanda dharaniとの比較を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 169-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 園田沙弥佳	4. 巻 69
2. 論文標題 The Composition of the Pancaraksa	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度學仏教學研究	6. 最初と最後の頁 1112-1117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 園田沙弥佳	4. 巻 68
2. 論文標題 『サーダナ・マーラー』における マーリーチーの成就法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度學仏教學研究	6. 最初と最後の頁 188-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 園田沙弥佳	4. 巻 57
2. 論文標題 インド密教における五護陀羅尼と女尊 MahamayuriとMariciを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 167-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 園田沙弥佳
2. 発表標題 『大秘密真言随持経十萬註』における2種の『大護明陀羅尼』について 疫病消除説話との比較を中心に
3. 学会等名 東洋大学東洋学研究所 オンライン研究発表例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 園田沙弥佳
2. 発表標題 チベット大蔵経所収の五護陀羅尼注釈について
3. 学会等名 日本印度學仏教学会 第71回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 園田沙弥佳
2. 発表標題 『明呪大妃大寒林經十萬註』における2種の『大寒林陀羅尼』について
3. 学会等名 東洋大学東洋学研究所 オンライン研究発表例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園田沙弥佳
2. 発表標題 五護陀羅尼Pancaraksaの構成について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会 第71回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園田沙弥佳
2. 発表標題 『サーダナ・マーラー』における マーリーチーの成就法
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田沙弥佳
2. 発表標題 インド密教における五護陀羅尼と女尊 MahamayuriとMariciを中心に
3. 学会等名 東洋大学東洋学研究所研究発表例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

SONODA's Website
<https://sonodas.skr.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------